

ヒト幹細胞臨床研究実施計画書

臨床研究の名称	青壮年者の有痛性関節内軟骨障害に対する I 型コラーゲンを担体としたヒト培養自己骨髄間葉系細胞移植による軟骨再生研究
研究機関	
名称	信州大学医学部附属病院
所在地	〒390-8621 長野県松本市旭 3 - 1 - 1
電話番号	0263-35-4600
FAX 番号	0263-37-3024 (総務課)
研究機関の長	
氏名	小池 健一
役職	信州大学医学部附属病院長
研究責任者	
所属	信州大学医学部運動機能学講座
役職	教授
氏名	加藤博之
連絡先 Tel/Fax	0263-37-2659/0263-35-8844
E-mail	hirokato@shinshu-u.ac.jp
最終学歴	昭和 54 年北海道大学医学部医学科卒業
専攻科目	整形外科学
その他の研究者	添付書類 1 参照
臨床研究の目的・意義	<p>肘・膝・足関節の離断性骨軟骨炎と外傷性骨軟骨障害・膝蓋骨軟骨障害で有痛性の場合、関節の運動時痛のために、歩行、階段昇降、しゃがみこみなどの日常生活動作が困難となる。これらの疾患により患者は就学・就労・スポーツ活動の制限を受け、QOL (生活の質) が著しく損なわれる。これらの有痛性関節内軟骨障害の根治的治療方法はない。また、関節軟骨の修復能力は非常に弱く、いったん損傷されると本来の組織である硝子軟骨で修復されることは通常期待できない。一方、これらの有痛性軟骨障害を放置すると徐々に変形性関節症 (OA) に移行するとされる。</p> <p>従来、このような軟骨障害に対する手術方法としてはドリリングに代表される骨髄刺激法が行われてきた。この方法は軟骨下骨を削り出血させることで骨髄中の間葉系細胞を動員し修復を得る方法である。ドリリングは簡便な方法であるがこれにより再生されるのは線維軟骨である。そこで、硝子軟骨による修復を目指して自家骨軟骨柱移植法であるモザイクプラスチック、あるいは自己の関節軟骨</p>